

## 基本計画書

基本計画											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	大学院の研究科の専攻の設置										
フリガナ設置者	コリウダガクホジシ ヌイコリウダガク 公立大学法人 新見公立大学										
フリガナ大学の名称	ニヨコリウダガクガクイン 新見公立大学大学院 (Graduate School of Niimi University)										
大学本部の位置	岡山県新見市西方1263番地2										
大学の目的	学術の理論及び応用を教授研究し、深奥を究め、学術と教育の振興を図り、保健・医療・福祉の増進と地域医療の発展に寄与するとともに、学術研究を創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を育成する。										
新設学部等の目的	中山間地域の課題解決のために活躍する、福祉学の視点からみた全世代型地域包括ケアを追究・実践するリーダーを育成する。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	健康科学研究科 [Graduate School of Human Health Sciences] 地域福祉学専攻（修士課程） [Master's Course of Community Welfare] 計	2年	4人	—年次人	8人	修士（地域福祉学） [Master of Social Work]	令和5年4月第1年次	岡山県新見市西方1263番地2			
			4		8			【基礎となる学部】 健康科学部地域福祉学科  14条特例の実施			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）（2）（令和4年3月認可申請） 看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（定員減）（△1）（令和4年4月学則変更届出） 令和5年4月名称変更 看護学研究科→健康科学研究科（令和4年4月学則変更届出）										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	健康科学研究科 地域福祉学専攻（修士課程）	講義	演習	実験・実習	計	30単位					
		13科目	3科目	0科目	16科目						
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
	新設	健康科学研究科 地域福祉学専攻（修士課程）			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
					人	人	人	人	人	人	
					7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	14 (14)
	既設	健康科学研究科 看護学専攻（博士後期課程）			10 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
		計			17 (17)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	— (—)
		健康科学研究科 看護学専攻（修士課程）			12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	8 (8)
計			12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	— (—)		
合計			19 (19)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	— (—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		22 (22)	0 (0)	22 (22)					
	技 術 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)					
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)					
	そ の 他 の 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)					
計			29 (29)	0 (0)	29 (29)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	21,250㎡	0㎡	0㎡	21,250㎡					
	運 動 場 用 地	5,031㎡	0㎡	0㎡	5,031㎡					
	小 計	26,281㎡	0㎡	0㎡	26,281㎡					
	そ の 他	4,013㎡	0㎡	0㎡	4,013㎡					
	合 計	30,294㎡	0㎡	0㎡	30,294㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
		16,844.38㎡ (16,844.38㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	16,844.38㎡ (16,844.38㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	41室	15室	18室	3室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		健康科学研究科地域福祉学専攻		8 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	地域福祉学科と 共用		
	健康科学研究科 地域福祉学専攻	10,559 [253] (9,279 [253])	30 [3] (30 [3])	4 [4] (2 [2])	192 (182)	266 (266)	0 (0)			
	計	10,559 [253] (9,279 [253])	30 [3] (30 [3])	4 [4] (2 [2])	192 (182)	266 (266)	0 (0)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		2,290.99㎡	161		100,000					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		3,617.97㎡	-							
経 費 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での 算出不能なため 学部との合計
		教員1人当り研究費等		320千円	320千円	-	-	-	-	
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	-	-	-	-	
		図書購入費	10,022千円	10,022千円	10,022千円	-	-	-	-	
	設備購入費	4,419千円	4,419千円	4,419千円	-	-	-	-		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	724千円(区域内) 818千円(区域外)	536千円	-	-	-	-				
学生納付金以外の維持方法の概要			大学運営交付金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	新見公立大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員 人	編入学 定員 年次 人	収容 定員 人	学位又 は称号	定員 超過率 倍	開設 年度	所 在 地	令和4年4月届出 名称変更 入学定員減 (△1人)  平成31年度 入学定員増 (20人)
	健康科学研究科 看護学専攻 (修士課程)	2	4	-	8	修士(看護学)	0.6	平成26 年度	岡山県新見市 西方1263番地2	
	健康科学部						1.06			
	健康保育学科	4	50	-	200	学士(保育学)	1.04	平成31 年度		
看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	1.05	平成22 年度			
地域福祉学科	4	50	-	200	学士(地域福祉学)	1.09	平成31 年度			
附属施設の概要		該当なし								

教育課程等の概要															
(健康科学研究科地域福祉学専攻修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	健康科学特論	1前	2			○								兼7	オムニバス
	健康科学英語特論	1後		2		○								兼2	オムニバス・共同(一部) ※演習
	小計(2科目)	—	2	2		—			0	0	0	0	0	兼8	
基礎科目	福祉共生社会特論	1前	2			○			3					兼3	オムニバス・共同(一部) ※演習
	地域福祉学研究方法論	1前	2			○			6	1					オムニバス・共同(一部) ※演習
	社会調査特論	1前		2		○			2						オムニバス ※演習
	量的調査特論	1後		2		○			1						※演習
	質的調査特論	1後		2		○			2	1				兼1	オムニバス・共同(一部) ※演習
	小計(5科目)	—	4	6	0	—			6	1	0	0	0	兼4	
専門科目	地域福祉学特論Ⅰ(社会福祉理論領域)	1前		2		○			1						※演習
	地域福祉学特論Ⅱ(介護福祉領域)	1前		2		○			2						オムニバス・共同(一部) ※演習
	地域福祉学特論Ⅲ(ソーシャルワーク領域)	1前		2		○			1	1					オムニバス ※演習
	地方政策学特論	1後		2		○			1					兼1	オムニバス ※演習
	地域包括ケア福祉学特論	1後		2		○			3					兼2	オムニバス・共同(一部) ※演習
	コレクティブ・インパクト特論	2前		2		○			3					兼3	オムニバス・共同(一部) ※演習
	専門演習	2前		2			○		3						集中・共同
	小計(7科目)	—	4	10	0	—			6	1	0	0	0	兼5	
研究指導	地域福祉学特別研究Ⅰ	1通	4				○		5	1					
	地域福祉学特別研究Ⅱ	2通	4				○		5	1					
	小計(2科目)	—	8			—			5	1	0	0	0		
合計(16科目)		—	18	18	0	—			7	1	0	0	0	兼14	
学位又は称号	修士(地域福祉学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目18単位、選択科目12単位以上を含む、合計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。選択科目12単位以上には、看護学専攻(修士課程)で開講する選択科目4単位を含めることができる。研究指導教員が担当する地域福祉学特別研究Ⅰ及び地域福祉学特別研究Ⅱを履修すること。研究指導教員が担当する選択科目を2単位以上修得すること。専門科目の選択科目のうち、地域福祉学特論Ⅰ(社会福祉理論領域)、地域福祉学特論Ⅱ(介護福祉領域)、地域福祉学特論Ⅲ(ソーシャルワーク領域) 各4単位を選択必修とする。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要															
(健康科学部地域福祉学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域学群	にこにこの文化	1前	1			○								兼1	
	にこにこの保健医療福祉	1後	1			○			1					兼2 オムニバス	
	にこにこの地域協働演習	1前		1				○				1		兼2 オムニバス	
	地域防災論	2前		2				○				1		兼9 集中・オムニバス	
	地域防災演習	2前		1					○			1		兼5 集中・共同	
	小計(5科目)	—	2	4					—	1			1		兼14
健康科学群	健康科学Ⅰ(健康・医療論)	1前	1				○							兼7 オムニバス	
	健康科学Ⅱ(身体の仕組みと機能)	1前		1			○							兼5 オムニバス	
	健康科学Ⅲ(基礎病態学)	1後		1			○							兼5 オムニバス	
	健康科学Ⅳ(病気の治療)	1後		1			○		1					兼6 オムニバス	
	チームアプローチ演習	3前	1						○					兼3 共同	
小計(5科目)	—	2	3					—	1					兼19	
基礎	基礎ゼミナール	1通	1						○		5	4	3	2	共同
	小計(1科目)	—	1						—	5	4	3	2		
人間と文化	哲学	1前		2			○							兼1	
	文学	1前		2			○							兼1	
	倫理学	1後		1			○			1					
	美術	1前		2			○							兼1	
	音楽	1後		2					○					兼1	
小計(5科目)	—		9					—		1				兼4	
人間と社会	日本国憲法	1前		2			○			1					
	経済学	1後		1			○					1			
	社会学	1前		2			○				1				
	教育学	1後		2			○							兼1	
	心理学	1後		2			○							兼1	
小計(5科目)	—		9					—	1	1		1		兼2	
スポーツ	スポーツ実習A	1後		2										兼1 集中・共同	
	スポーツ実習B	1前		1										兼2 オムニバス	
	生涯スポーツ論	1前		1			○							兼1	
	小計(3科目)	—		4					—					兼2	
自然と情報	ICTリテラシーⅠ	1前	2					○						兼2 共同	
	ICTリテラシーⅡ	1後		2				○						兼1	
	自然科学Ⅰ	1前		2			○							兼3 オムニバス	
	自然科学Ⅱ	1後		2			○							兼3 オムニバス	
小計(4科目)	—	2	6					—						兼5	
人間と言語	英会話Ⅰ	1前	1					○						兼1	
	英会話Ⅱ	2後		1				○						兼1	
	英語Ⅰ	1後		1			○			1					
	英語Ⅱ	2前		1			○			1					
	健康科学英語	2前		1			○			1					
	英語論文講読	3前		1					○					兼1 オムニバス	
	国際コミュニケーション	1・2・3・4通		1					○					兼1 集中	
	手話	1前		2					○					兼1	
	国語表現法	1前		2			○							兼1	
小計(9科目)	—	1	10					—	1					兼2	
合計(16科目)		—	8	45	0				—	7	4	3	3	0	兼14

教育課程等の概要																
(健康科学部地域福祉学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
地域福祉学科専門基礎	現代社会と福祉Ⅰ	1前	2			○			1							
	社会保障Ⅰ	1前	2			○			1							
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	2後	2			○			1							
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	3前	2			○			1							
	認知症の理解Ⅰ	1前	2			○			1					兼1	オムニバス	
	介護福祉論	1前	2			○			2	1	1	1			オムニバス	
	コミュニケーション技術Ⅰ	1前	1				○				1					
	福祉サービス入門実習	1前	1					○	2	1	1	1			オムニバス	
	地域文化実習	2通	2					○	2						兼3	オムニバス・共同(一部)
	小計(5科目)	—	—	16			—		5	1	1	1			兼4	
専門研究	入門ゼミナール	2通	1				○		7	4	3	3			オムニバス・共同(一部)	
	専門ゼミナール	3通	1				○		6	5	3					
	地域福祉研究	4通	4				○		6	5	3					
	小計(3科目)	—	—	6			—		6	5	3	3				
専門科目	社会福祉学専門	現代社会と福祉Ⅱ	1後		2		○				1					
		社会保障Ⅱ	1後		2		○		1							
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	1後		2		○		1							
		高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	2前		2		○							1	兼2	オムニバス
		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2後		2		○								兼1	オムニバス
		児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2後		2		○			1						
		相談援助の基盤と専門職Ⅰ	2後		2		○				1					
		相談援助の基盤と専門職Ⅱ	3前		2		○				1					
		相談援助の理論と方法Ⅰ	1後		2		○					1				
		相談援助の理論と方法Ⅱ	2前		2		○					1				
		相談援助の理論と方法Ⅲ	2後		2		○					1				
		相談援助の理論と方法Ⅳ	3前		2		○			1						
		低所得者に対する支援と生活保護制度	3前		2		○								兼1	
		権利擁護と成年後見制度	3後		2		○			1						
		保健医療サービス	3前		2		○				1		1			オムニバス
	社会調査の基礎	3前		2		○				1						
	更生保護制度	3前		1		○								兼1		
	就労支援サービス	3後		1		○								兼1		
	福祉行財政と福祉計画	3後		2		○				1						
	福祉サービスの組織と経営	3後		2		○				1						
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	1後		1				○	1		1	3			共同(一部)	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2前		1				○	1			3			共同(一部)	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2後		1				○	1	1		3			共同(一部)	
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3前		1				○	1			3			共同(一部)	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3後		1				○	2	1	1	3			共同(一部)	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後		1				○	2	1	1	3			共同(一部)	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		1				○	2	1	1	3			共同(一部)	
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後		1				○	2	1	1	3			共同(一部)		
コミュニティ・ソーシャルワーク実習	3前		4				○	2	1	1	3			※実習		
小計(30科目)	—	—	50			—		4	2	1	3			兼5		

教育課程等の概要														
(健康科学部地域福祉学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
社会調査	社会調査論Ⅰ	2前		2		○				1				
	社会調査論Ⅱ	2後		2		○				1				
	社会調査論Ⅲ	3前		2		○				1				
	社会調査論Ⅳ	3後		2		○				1				
	社会調査論Ⅴ	4前		2		○				1				
	社会調査演習	3後		1			○			1				
	社会調査実習Ⅰ	4前		1				○		2				共同
	社会調査実習Ⅱ	4後		1				○		2				共同
小計(8科目)	—		13			—			3					
労務保険	社会保険労務概論Ⅰ	2前		2		○			1					兼1 オムニバス
	社会保険労務概論Ⅱ	2後		2		○			1					兼1 オムニバス
	小計(2科目)	—		4		—			1					1
行政・法学	民法概論Ⅰ	2前		2		○			1					
	民法概論Ⅱ	2後		2		○			1					
	医療福祉関係法規	3後		1		○			1					
	行政法Ⅰ	3前		2		○			1					
	行政法Ⅱ	2後		2		○			1					
	行政書士概論Ⅰ	2前		2		○			1					
	行政書士概論Ⅱ	2後		2		○			1					
	小計(7科目)	—		13		—			2					
地域福祉学・政策学	NPO事業論	3後		1		○								兼3 オムニバス・共同
	社会福祉士開業論	3前		1		○								兼1
	公共政策論	3前		1		○						1		兼1 集中・共同
	医療と福祉の社会学	3後		1		○				1				
	中山間地域の保健医療福祉政策	3後		1		○				1				
	国際保健医療福祉政策	3後		1		○				1				
	福祉教育・ボランティアコーディネーション論	2前		1		○			1					
	災害ソーシャルワーク	3後		1		○			1					
	ソーシャルキャピタルとコミュニティデザイン	3後		1		○			1	1		1		オムニバス・共同(一部)
	社会福祉とジェンダー	2前		1		○			1	1				オムニバス・共同(一部)
	子育て支援論	3後		1		○			1					
	家族福祉論	3後		1		○								兼1
小計(12科目)	—		12		—			3	2		2		兼6	
介護福祉学専門	認知症の理解Ⅱ	1後		2		○			1					
	認知症のある人への生活支援・連携	3前		2		○			1	1				オムニバス
	障がいの理解Ⅰ	1後		2		○			1					
	障がいの理解Ⅱ	2前		2		○					1			
	発達と老化の理解Ⅰ	1後		2		○								兼1
	発達と老化の理解Ⅱ	2前		2		○								兼4 オムニバス
	こころとからだのしくみⅠ	2前		2		○								兼1
	こころとからだのしくみⅡ	2後		2		○								兼1
	心理的支援の知識・技術	2後		2		○								兼1
	疾患・障害がある人への生活支援・連携Ⅰ	3前		2		○			2	1				オムニバス
	アクティビティ活動援助法Ⅰ	2後		1		○			1		1			兼1 オムニバス・共同(一部)
	アクティビティ活動援助法Ⅱ	3後		1		○			1		1			兼1 オムニバス・共同(一部)
小計(12科目)	—		22		—			2	1	2			兼7	

教育課程等の概要															
(健康科学部地域福祉学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	介護の基本 I	1後		2		○			1						
	介護の基本 II	1後		2		○			1						
	介護の基本 III	2後		1		○			1		1			オムニバス・共同(一部)	
	介護の基本 IV (リハ)	3後		2		○								兼2 オムニバス	
	介護の基本 V (リスクマネ)	3後		1		○	○			1					
	小計(5科目)	—		8		—			1	1	1			兼2	
	介護福祉コミュニケーション	コミュニケーション技術 II	1後		1			○				1			
	小計(1科目)	—		1		—					1				
	生活支援技術	生活支援技術 I	1後		1		○	○		1		2			オムニバス・共同(一部)
	生活支援技術 II	1後		1			○	○	○	1		2			兼1 オムニバス・共同(一部)
	生活支援技術 III	2前		1				○	○	1		2			オムニバス・共同(一部)
	生活支援技術 IV	2後		1				○	○	1		2			オムニバス・共同(一部)
生活支援技術 V	2後		1				○	○						兼1	
生活支援技術 VI	2後		1			○	○		1					兼1 集中	
生活支援技術 VII	4前		1			○	○		1					兼1	
生活と家事の支援学	2後		1			○	○							兼1	
食生活支援技術	4前		1			○	○							兼1	
生活環境支援技術	3後		1			○	○							兼2 オムニバス	
生活支援のための運動学・生活支援のためのリハビリテーションの知識	4後		2			○								兼2 オムニバス	
福祉用具と住環境	4後		2			○			1					兼2 オムニバス	
小計(12科目)	—		14		—				1	1	2			兼8	
介護過程	介護過程総論	1後		1		○			1						
介護過程演習 I	2前		1				○		2	1	2			オムニバス・共同(一部)	
介護過程演習 II	2後		1				○		2	1	2			オムニバス・共同(一部)	
介護福祉事例研究(施設)	4前		1				○		2	1	2			オムニバス・共同(一部)	
介護福祉事例研究(在宅)	4後		1				○		2	1	2			オムニバス・共同(一部)	
小計(5科目)	—		5		—				2	1	2				
介護総合演習	介護総合演習 I	1後		1			○		2	1	2			オムニバス・共同(一部)	
介護総合演習 II	2前		1				○		2	1	2			オムニバス・共同(一部)	
介護総合演習 III	3後		1				○		2	1	2			オムニバス・共同(一部)	
介護総合演習 IV	4前		1				○		2	1	2			オムニバス・共同(一部)	
小計(4科目)	—		4		—				2	1	2				
介護実習	介護福祉実習 I	1後		2				○	2	1	2			※実習	
介護福祉実習 II	2前		4					○	2	1	2			※実習	
介護福祉実習 III	3後		4					○	2	1	2			※実習	
介護福祉実習 IV	4前		1					○	2	1	2			※実習	
小計(4科目)	—		11		—				2	1	2				
医療的ケア	医療的ケア I	4前		1		○				1					
医療的ケア II	4前		1			○				1					
医療的ケア III	4後		1				○		1	1				オムニバス・共同(一部)	
医療的ケア IV	4後		1					○	1	1				オムニバス・共同(一部)	
小計(4科目)	—		4		—				1	1					
介護予防	介護予防運動指導 I	4前		1			○		1					兼1 オムニバス・共同(一部)	
介護予防運動指導 II	4前		1				○		1					兼1 オムニバス・共同(一部)	
小計(2科目)	—		2		—				1					兼1	
共生社会推進士	共生社会実践演習 I	2通		2			○		1			2		共同	
共生社会実践演習 II	3通		2				○		1		2			共同	
共生社会実践演習 III	4前		1				○		1		1			共同	
地方行政インターンシップ	3前		1					○	1		1			兼1 ※実習	
小計(4科目)	—		6		—				1		2			兼1	
合計(159科目)		—	30	214		—			8	4	3	4		兼72	
学位又は称号		学士(地域福祉学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
基礎科目20単位以上、専門科目104単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
（健康科学研究科地域福祉学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目	健康科学特論	<p>（概要）医学・医療の諸課題を広く概観し、本学が目標とする健康科学の視点と関連知識を修得する。各分野の現状と課題・展望について学修し、将来の健康科学に関する研究の基盤を広げることにより、全世代型地域包括ケアの実現に資する。講義ではまず新見公立大学の目指す健康科学、研究倫理、地域包括ケアシステムの現状と課題を明らかにする。その後、中山間地域における地域医療、子どもの成長・発達の諸問題、障害児童支援の課題と展望、中山間地域におけるメンタルヘルス、リエゾン精神医学、病理・病態、ワクチンの現状と課題、高齢者の排尿障害の治療と課題、癌治療の現状と展望、シミュレーション医療教育について講義をする。以上を踏まえて、医科学から全世代型健康科学及び地域基盤型健康科学への展望について講義をする。</p> <p>（科目責任者：山田雅夫）</p> <p>（オムニバス方式/全15回）            (9 公文裕巳/3回)            新見公立大学の目指す健康科学、高齢者の排尿障害の治療と課題、癌治療の現状と展望について講義をする。            (10 小田慈/3回)            研究倫理の現状と課題、子どもの成長・発達の諸問題、ワクチンの現状と課題について講義をする。            (12 井上真一郎/2回)            メンタルヘルスの現状と課題及びリエゾン精神医学の展開について講義をする。            (13 山田雅夫/3回)            病理・病態の理解、医科学から全世代型健康科学への展望及び地域基盤型健康科学への展望について講義をする。            (14 岡本邦広/1回)            障害児童支援の課題と展望について講義をする。            (18 浜田淳/1回)            地域包括ケアシステムの現状と課題について講義をする。            (19 溝尾妙子/2回)            中山間における地域医療の課題と展望及びシミュレーション医療教育の現状と課題について講義をする。</p>	オムニバス方式
	健康科学英語特論	<p>（概要）健康科学に関する英語で書かれた専門的論文を読むことで、健康科学分野における英語の専門語彙の修得及び論文の構成力と論旨の展開方法について学ぶ。論文の構成や論の進め方に触れ、最新の健康科学分野の情報の取得を目的とする。諸外国の健康科学に関する論文に触れることで、国際的な研究への関心を深め、自らの研究も国際的な視点から行えるような態勢を作る。講義では、研究論文を量的研究論文、実験研究論文、質的研究論文、事例研究論文、文献研究論文に分けて、順に講読する。</p> <p>（科目責任者：山田雅夫）</p> <p>（オムニバス方式/全15回）            (11 山内圭/6回)            英語論文を英語的視点で講読する。量的研究、実験研究、質的研究、事例研究、文献研究に分けて、主に英語論文の文法、構成、和訳方法について解説する。            (13 山田雅夫/6回)            英語論文を専門的視点で講読する。量的研究、実験研究、質的研究、事例研究、文献研究に分けて、主に健康科学論文の論理構成について解説する。            (11 山内圭・13 山田雅夫/3回) (共同)            英語論文の検索方法等のオリエンテーションを行う。2回は総括として、今後の研究方法について、学生の研究関心に合わせて講義をする。</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	福祉共生社会特論	<p>(概要) 「我が事・丸ごと」地域共生社会に至る歴史的・政策的背景を理解し、これからの中山間地域の共生社会における福祉的課題について理解し、解決に向けての視点を修得する。講義では各論として、共生社会の視点から福祉ニーズのある人々への支援の現状と課題、地方行政の基本的視点を学ぶ。まず共生社会に関する基本的な視点を理解するために、「我が事・丸ごと」施策と共生社会への歴史的背景と経緯、共生社会のこれからの方向性、地域づくり、地域包括ケアシステム、重層的支援について講義をする。これらを踏まえて、共生社会における障害者の地域での暮らし、地域福祉学の歴史と理論、中山間地域、高齢社会の福祉課題について講義をする。その後、知的・発達障害者の現状と学習、児童虐待予防と対応のための機関連携、精神障害者の状況と地域での支援、地方行政の現状、課題について講義をする。</p> <p>(科目責任者：井上信次)</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (③ 井上信次/3回)  共生社会における福祉ニーズがある人への支援として知的・発達障害者の現状と学習について、及び児童虐待予防と対応のための機関連携について講義をする。  (④ 加藤雅彦/3回)  地方行政による政策の現状、課題、今後について講義をする。  (⑤ 高杉公人/3回)  共生社会の視点から地域福祉学を概観する。特に歴史的背景、中山間地域、高齢社会の福祉課題について講義をする。  (12 井上真一郎/2回)  福祉ニーズがある人への支援として、精神障害者の状況、精神障害者への地域での支援について講義をする。  (16 蒲原基道/1回)  共生社会に関する基本的な視点、「我が事・丸ごと」施策と共生社会への歴史的背景と経緯、共生社会のこれからの方向性、地域づくり、地域包括ケアシステム、重層的支援について講義をする。  (17 高原伸幸/1回)  共生社会の視点から障害者の地域での暮らしについて講義をする。  (③ 井上信次、⑤ 高杉公人/2回) (共同)  受講生が自身のフィールドにおける共生社会実現のための課題についてプレゼンテーションし、それについて議論をする。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部) 講義26時間 演習4時間
	地域福祉学研究方法論	<p>(概要) 地域福祉学の理論的枠組みを理解し、学術的研究の視点、研究倫理と手法、援助技術の展開方法を修得する。まず地域福祉学専攻での学修と修士論文について講義をし、その後、地域福祉の研究手法に関する理論と実際の事例を解説する。以上を踏まえて研究を展開する上で必要な先行研究レビュー、社会調査の企画、量的調査と質的調査の概要、研究倫理についての歴史的な背景とその実際について講義をする。また相談援助の理論と実践への展開を学ぶことで、地域福祉学として必要な援助技術への理解を図る。最終的には、受講生が自身の研究テーマ、計画に関して発表を行い、受講生の研究フィールドを精査し、研究の方向性について議論する。</p> <p>(科目責任者：井上信次)</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (② 鄭丞媛/2回)  研究倫理についての歴史的な背景と研究を行う上での倫理的配慮について講義をする。  (③ 井上信次/4回)  地域福祉学専攻での学修と修士論文、先行研究レビューの方法、社会調査の企画、量的調査と質的調査の概要について演習を踏まえた講義をする。  (⑤ 高杉公人/2回)  地域福祉領域の研究手法について講義をする。  (⑥ 小松尾京子/3回)  相談援助の理論 (ジェネラリスト・ソーシャルワークと地域福祉援助)、相談援助の実践への展開 (地域包括ケアシステム、地域を基盤としたソーシャルワーク) について講義をする。  (1 松本百合美、3 山本浩史、② 鄭丞媛、③ 井上信次、④ 加藤雅彦/4回) (共同)  受講生の研究テーマに関する発表を踏まえて、受講生の研究フィールドを精査し、研究の方向性について演習形式で議論する。</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部) 講義20時間 演習10時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	社会調査特論	<p>(概要) 中山間地域での社会調査を実践的に企画・設計・実施し、分析・集計を行うための実践的な知識と能力を修得する。比較的簡単な量的分析とグラフ作成、質的な分析、以上に基づく報告書の作成などに関して学ぶ。主に調査企画と設計、調査方法の決定、仮説構成、調査票の作成、サンプリング理論等についてコンピュータを用いた実践的演習を含んだ講義を行う。また地域福祉における調査、疫学調査について事例を用いて講義をする。その上で、受講生の研究テーマに合った調査方法について討論する。 (科目責任者：井上信次)</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (② 鄭丞媛/3回) 地域福祉における調査に関する方法論、事例紹介、疫学調査の実際について講義をする。 (③ 井上信次/12回) 科学的な調査、調査企画と設計、調査方法の決定、尺度水準、仮説構成法、調査票の作成、サンプリング理論、フィールドの選定、実査と調査データの整理、質的データの分析について演習を含んだ講義をする。さらに受講生の研究テーマに合った調査方法の選択について討論する。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
	量的調査特論	<p>(概要) 修士論文及び中山間地域の課題を精査するために必要な量的な解析に関する力を修得する。特に多変量解析に共通する計量モデルを用いた解析方法を理解する。計量モデルを用いた分析法を基本的に理解する。講義とコンピュータを用いた演習を交互に行う。また受講生の研究関心に併せた解析方法を検討する。主に、検定の基礎、t検定、回帰分析、分散分析、主成分分析、因子分析、項目反応理論を講義し、その上で受講生の研究テーマに合った解析について講義をする。</p>	講義20時間 演習10時間
	質的調査特論	<p>(概要) 質的調査のメリット・デメリットをふまえて、修士論文及び中山間地域の課題を質的に分析するために必要な力を修得する。質的調査の各分析手法について理論と分析例から、事前準備、データ収集、分析方法、実践へのフィードバック等の一連のプロセスを実践できる力を養成する。エスノグラフィー、内容分析、フィールドワーク、映像分析等の質的調査の具体例や事例に対する演習やディスカッションを通して、質的調査に関する知識と技術の向上を図る。 (科目責任者：小松尾京子)</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (3 山本浩史 /2回) 一次史資料・エゴドキュメントの内容分析から思想、主義を分析する方法について講義をする。 (⑤ 高杉公人/3回) フィールドワークにおけるデータ収集とデータ分析の方法を学び、集めたデータを実践に活用するアクション・リサーチの方法と実践について、演習を踏まえて講義をする。 (⑥ 小松尾京子/6回) 質的調査に関する概論、プロセス、調査的面接の方法、個別インタビュー調査、グループインタビュー、会話分析について講義をする。 (15 朴蕙彬/2回) 映像分析の手法について講義をする。 (3 山本浩史、⑤ 高杉公人、⑥ 小松尾京子、15 朴蕙彬/2回) (共同) 質的調査全般のメリットとデメリットについて受講生と議論し、受講生の質的調査に関する知識と技術の向上を図る。</p>	オムニバス方式・ 共同(一部) 講義20時間 演習10時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	地域福祉学特論Ⅰ (社会福祉理論領域)	(概要) 社会福祉学の諸理論を学修し、実践の基盤となる地域福祉に必要な支援に関する理論及び住民主体・利用者主体の視点を修得する。そのため社会事業・社会福祉発達史、社会福祉思想等を通じて福祉実践の基礎となる地域福祉に必要な支援に関する理論及び視点について講義をする。社会事業・社会福祉史、社会福祉思想等の文献講読、輪読をし、受講生が持つ福祉課題を解決するための具体的な方法、実践的支援への理論的援用の可能性について演習を含んだディスカッションをする。	講義20時間 演習10時間
	地域福祉学特論Ⅱ (介護福祉領域)	(概要) 介護福祉に関わる実践理論と事例分析から、利用者主体・住民主体の視点から介護福祉に関わる課題を探索する能力と実践力を修得する。介護福祉に関わる実践調査研究及び研究教育から、高齢者や障害者の尊厳のある生活のための介護モデルの理論と実践等について考察を深めるための講義を行う。その上で、受講生が介護福祉に関わる課題を探索する素養と実践力を身につける。介護の理論と介護実践による介護福祉学の構築を目指し、その基礎となる介護福祉の概念、思想、成立過程、専門性、倫理性について学ぶ。さらに対象者の尊厳ある生活支援のあり方、現代社会において顕在化してきた介護者をめぐる諸問題、人口減少社会を迎えた我が国における、中山間地域での地域包括支援のあり方を探っていく。実践力を涵養するために、受講生から提出された事例に基づき、解決のための計画を演習形式で立案し検討を行う。 (科目責任者：松本百合美)  (オムニバス方式/全15回) (1 松本百合美/5コマ) 介護福祉の概念、成立と進展、専門性、倫理性、実践における諸理論と介護技術の標準化、介護福祉機器、ICTを活用した介護の生産性向上への取り組みについて講義をする。 (① 三上ゆみ/5コマ) コミュニティと介護福祉について、高齢者・障害者・認知症の人、家族介護者支援、中山間地域における連携と協働、地域における介護福祉の展開について講義をする。 (1 松本百合美、① 三上ゆみ/全5回) (共同) 介護にかかわる課題について、受講生が提示した実践事例や関連事例から地域住民や多くの関係者と協働しながら、解決方法を探索、立案し、実践的に解決する方法について演習形式で討論する。	オムニバス方式・ 共同 (一部) 講義20時間 演習10時間
	地域福祉学特論Ⅲ (ソーシャルワーク領域)	(概要) 日本国内の事例分析から、住民主体の支援方策を考案する能力、まちぐるみの支援体制を企画・立案する能力を修得する。「地域を基盤としたソーシャルワーク」及び「地域福祉の基盤づくり」について基礎となる概念や付随する理論について学び、理論と実践を融合させた日本国内のグッドプラクティスを取り上げて事例分析を演習形式で議論し、最終的に中山間地域の生活課題を抱えた人々への総合的かつ包括的な支援方策探索、立案する方法を講義する。地域福祉の理論と発展の歴史、地域を基盤としたソーシャルワークの考え方、地域福祉の基盤づくりの考え方、中山間地域における生活課題と地域福祉援助、中山間地域における生活課題と地域福祉援助や、実際の事例分析をソーシャルワークの視点から講義する。 (科目責任者：高杉公人)  (オムニバス方式/全15回) (⑤ 高杉公人/8回) 地域福祉学概論及び地域を基盤としたソーシャルワークの考え方、地域福祉の基盤づくりの考え方、地域ネットワーク形成、地域福祉の計画づくり・システムづくりについて講義をする。その中で、受講生の研究フィールドにおけるまち全体で行う地域福祉計画の探索、立案について演習形式で実践的に考える。 (⑥ 小松尾京子/7回) 地域で展開する総合相談、地域における個別支援の基本的視座、支援困難事例への専門的援助、地域におけるケアマネジメントについて講義をする。その中で、受講生の関心がある福祉的支援が必要な人への支援方法についてケースカンファレンスやスーパービジョンを用いて演習形式で実践的に考える。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地方政策学特論	<p>(概要) ソーシャル・インパクト・ボンド等の新しい地方政策の仕組みづくりを分析し、施策を構想・提案する能力を修得する。そのために行政が市民、企業、NPOなどを巻き込み、その地域をより良くしていくように活性化する地方政策の方法を学ぶ。前半では、日本の医療や福祉領域における地方政策の概要、歴史的展開を中心に話題提供を行う。後半では、諸外国における地方政策の概要、国内外の研究動向などについて話題提供するとともに、研究論文読解やディスカッションを通して、国際的視野の獲得、政策学の研究動向や研究方法について講義をする。 (科目責任者：鄭丞媛)</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (② 鄭丞媛/13回) 地方政策の動向、研究動向、諸外国における地方政策 (Age Friendly Cities、健康増進、介護予防)、医療・福祉領域における地方政策研究について研究論文を用いた講義及び討論をする。 医療・福祉領域における地方政策の動向と課題について講義をする。 (17 高原伸幸/2回) 地域生活を支えるシステムづくりの動向と課題について講義をする。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
専門科目	地域包括ケア福祉学特論	<p>(概要) 中山間地域の地域包括ケアシステムに関する実践事例を分析し、その成功要因等を一般化し、福祉実践のリーダーとして、中山間地域を中心とした地域包括ケアシステムに関する制度的な動向について講義を行う。中山間地域の全世代型地域包括ケアシステムに関する実践事例の分析から、個々の生活課題の解決に向けた包括的支援体制を構想し、実践的に評価する能力を修得する。中山間地域を中心とした地域包括ケアシステムに関する制度的な動向を学び、国内の実践事例を取り上げて事例分析を行い、成功要因や促進要因を一般化して新見市をはじめ、他の中山間地域で新しい地域包括ケアシステムを構想する。 (科目責任者：高杉公人)</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (④ 加藤雅彦/2回) 国内外の医療・保健・福祉システム実践事例について講義をする。 (⑤ 高杉公人/3回) 中山間地域における地域包括ケアシステムに関する事例として介護予防・生活支援、社会福祉法人による地域貢献の実践事例について講義をする。 (16 蒲原基道/1回) 地域共生社会における地域包括ケアシステムの政策について講義をする。 (17 高原伸幸/2回) 地域包括ケアシステムの政策論として、地方の地域包括ケアシステムと市町村行政、地域包括ケアシステム実践事例としての障害者支援と地域包括ケアについて講義をする。</p> <p>(② 鄭丞媛、⑤ 高杉公人/7回) (共同) 受講生の研究フィールドを踏まえた、中山間地域における住民主体の全世代型地域包括ケアに関する福祉実践事例を取り上げ、受講生の研究フィールドに援用する方法について演習形式で議論する。</p>	オムニバス方式 ・共同 (一部) 講義16時間 演習14時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	コレクティブ・インパクト特論	<p>(概要) 多くの関係者との共創であるコレクティブ・インパクトを基礎とする包括的支援体制を構想し、実践的に評価する能力を修得する。特に中山間地域をフィールドに行政、社会福祉法人、NPO、企業(CSR)、ボランティア、社会起業等の様々なセクターから様々なプレイヤーが集まって共通の課題に対してアクションを起こした国内外の事例を取り上げて演習形式で事例分析を行う。さらに、アクションの成功要因や促進要因を一般化して、新見市をはじめ他の中山間地域で持続可能な包括的支援体制を構築・実践する方法を提案する。 (科目責任者：加藤雅彦)</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (② 鄭丞媛/1回) 地域の多くの関係者との共創に基づくまちづくりの事例紹介として行政について講義をする。 (④ 加藤雅彦/2回) 保健・医療・福祉に関わる関係者との共創事例、海外での共創事例について講義をする。 (⑤ 高杉公人/3回) 日本の地域におけるプラットフォームの現状と課題について講義をする。さらに地域の多くの関係者との共創に基づくまちづくりの事例紹介として福祉人材育成、外国人支援について講義をする。 (20 石原達也/2回) コレクティブ・インパクトの概論及び地域の多くの関係者との共創に基づくまちづくりの事例紹介としてNPO・市民活動・ボランティアについて講義をする。 (21 藻谷浩介/1回) 中山間地域における共創と里山資本主義について講義をする。 (22 熊原保/1回) 社会福祉法人による地域における公益的な取組の事例について講義をする。</p> <p>(② 鄭丞媛、⑤ 高杉公人/5回) (共同) 地域の多くの関係者との共創に基づくまちづくりの基礎となるコレクティブ・インパクトに関する国内外の事例を取り上げ、受講生の研究フィールドにおいて、どのようにすれば福祉実践のリーダーとしてコレクティブ・インパクトを達成できるかに関して演習形式で議論する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)講義20時間演習10時間
	専門演習	<p>(概要) 特定の地域に実際に入り、分析することで、福祉実践のリーダーとして包括的支援体制を構想するために必要な構想力、指導力を修得する。主に新見市内にある岡山県「元気集落」に登録された地区に出かけ、「元気集落」の核となる住民やキーパーソン等とディスカッションを行い、多くの関係者と協働し創られた地域共生と住民主体の持続可能な集落のあり方を模索する。地域共生と住民主体の持続可能な集落運営のあり方や方法等について受講生によるプレゼンテーションをもとに議論を行うとともに、地域課題をもとに、新たな実践理論・モデルの開発に向けての構想力の育成、強化をする。 (科目責任者：三上ゆみ)</p> <p>(① 三上ゆみ、3 山本浩史、② 鄭丞媛/15回) (共同) イントロダクション、フィールドワーク(3カ所)、フィールドワークの振り返り、受講生によるプレゼンテーション、総括、受講生の研究フィールドへの援用可能性に関して受講者を交えて議論する。</p>	集中共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導	地域福祉学特別研究 I	<p>(概要) 福祉学の視点からみた全世代型地域包括ケアを追究・実践するために必要な、生活課題の解決に向けた取り組みを企画・立案・実践・評価する能力を修得する。地域福祉、共生社会を中心とした特定の課題に関して、研究の実践、指導を行う。関心のある研究テーマにそって、主指導教員、副指導教員による助言指導を得ながら研究を進め、研究計画書の作成をする。まず、研究目的を明確にし、研究デザイン、研究方法を具体的に計画する。関連ある先行研究を探索し、具体的な研究上の課題や方法論、対象者の選定方法などを詳細に検討する。研究倫理に関する確認、得られる結果の予測と仮説の設定、関連機関との調整や依頼など、実行可能な研究計画書を作成する。</p> <p>(① 三上ゆみ) 高齢者・障害の介護福祉実践を中心とした福祉領域における介護・看護実践を研究する者の研究計画書の作成指導、及び研究指導を行う。自己の研究テーマに向けた量的、質的研究手法で研究計画書の作成に向けた指導を行う。</p> <p>(② 鄭丞媛) 介護予防、健康増進、well-beingにつながるまちづくり、医療や介護の質の評価などの高齢者医療・福祉領域の研究を行う者の研究計画書の作成指導、及び研究指導を行う。統計学的手法や調査手法を含めた研究方法などを検討する。</p> <p>(③ 井上信次) 医療福祉の利用者に関わる調査の方法や、特に障害（メンタルヘルス問題、知的・発達障害）をもって生活することに付随する課題の把握と、その解決策を、主に質問紙調査をもって明らかにしようとする者の研究計画書の作成指導及び研究指導を行う。</p> <p>(④ 加藤雅彦) 衛生教育による地域交流を実際に企画して実践し、それを評価する研究を行う者の研究計画書の作成指導、及び研究指導を行う。</p> <p>(⑤ 高杉公人) 地域福祉や社会開発、社会福祉法人による地域貢献等に関する研究を行う者の研究計画書の作成指導、及び研究指導を行う。フィールドとつながりを持って実践と研究とを循環させるアクション・リサーチのアプローチをベースに、研究を実践にフィードバックする方法を指導する。</p> <p>(⑥ 小松尾京子) ソーシャルワーク論(スーパービジョン、ケアマネジメント)を研究課題とする者の研究計画書の作成指導、及び研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導	地域福祉学特別研究Ⅱ	<p>(概要) 地域福祉学特別研究Ⅰで作成した計画に基づき研究プロセスに沿って研究を実践する。福祉学の視点からみた全世代型地域包括ケアを追究・実践するために必要な、生活課題の解決に向けた取り組みを企画・立案・実践・評価する能力を修得する。個々の研究計画書に基づいた研究の実践を通して研究のプロセスを修得する。研究実践から得た知見を地域福祉学の発展に寄与する研究論文として作成する。得られたデータを整理・分析するための方法論を修得する。先行研究からの知見と研究結果をもとに、考察を深め、独自性のある研究論文へとまとめる。中間発表会を経て、指導教員と副指導教員の助言指導を受け、修士論文へとまとめる。</p> <p>(① 三上ゆみ) 高齢者・障害の介護福祉実践を中心とした福祉領域における介護・看護実践に関する研究の計画に基づいて修士論文執筆の指導、研究指導を行う。要援護者や家族、職員に関する質の高い実践を導くため、福祉領域の介護・看護実践における課題を探求する。</p> <p>(② 鄭丞媛) 介護予防、健康増進、well-beingにつながるまちづくり、医療や介護の質の評価などの高齢者医療・福祉領域に関する研究の計画に基づいて修士論文執筆の指導、研究指導を行う。</p> <p>(③ 井上信次) 医療福祉の利用者に関わる調査の方法や、特に障害（メンタルヘルス問題、知的・発達障害）をもって生活することに付随する課題の把握と、その解決策を、主に質問紙調査をもって明らかにしようとする者の修士論文執筆の指導、研究指導を行う。</p> <p>(④ 加藤雅彦) 衛生教育による地域交流を実際に企画して実践する研究の計画に基づいて、修士論文執筆の指導、研究指導を行う。研究データを収集したり解析したりする技能だけでなく、発表する技能も身につける。</p> <p>(⑤ 高杉公人) 地域福祉や社会開発、社会福祉法人による地域貢献等に関する研究の計画に基づいて修士論文執筆の指導、研究指導を行う。</p> <p>(⑥ 小松尾京子) ソーシャルワーク論(スーパービジョン、ケアマネジメント)に関する研究の計画に基づいて修士論文執筆の指導、研究指導を行う。</p>	

## 新見公立大学大学院の改組に関わる組織の移行表

令和4年度      入学定員   編入学定員   収容定員

新見公立大学	入学定員	編入学定員	収容定員
健康科学部			
健康保育学科	50	—	200
看護学科	80	—	320
地域福祉学科	50	—	200
助産学専攻科	5	—	5
計	185	—	725
新見公立大学大学院			
看護学研究科			
看護学専攻(M)	5	—	10
計	5	—	10



令和5年度      入学定員   編入学定員   収容定員   事由

新見公立大学	入学定員	編入学定員	収容定員	事由
健康科学部				
健康保育学科	50	—	200	
看護学科	80	—	320	
地域福祉学科	50	—	200	
助産学専攻科	5	—	5	
計	185	—	725	
新見公立大学大学院				
健康科学研究科				名称変更(届出)
看護学専攻(M)	<u>4</u>	—	<u>8</u>	定員変更(届出)
地域福祉学専攻(M)	<u>4</u>	—	<u>8</u>	専攻の設置(認可申請)
看護学専攻(D)	<u>2</u>	—	<u>6</u>	課程の設置(認可申請)
計	<u>10</u>	—	<u>22</u>	